

日本地衣学会 ニュースレター

No.151

Newsletter from the Japanese Society for Lichenology

目次

会務報告	577
日本地衣学会第17回大会（栃木県立博物館，2018年9月1-2日）報告 ／坂井 広人	577
会員通信	580
日本地衣学会第17回大会に参加して／小竹 ひとみ	580
日本地衣学会第17回大会に参加して／升本 宙	581
お知らせ	582
ニュースレター編集委員会からのお知らせ／川上 寛子	582

会務報告 *Report of the JSL Activities*

日本地衣学会第17回大会（栃木県立博物館，2018年9月1-2日）報告

Report of the JSL 17th Annual Meeting at Tochigi Prefectural Museum, 1-2 Sep 2018

/ by SAKAI Hiroto

>>>>>> 坂井 広人：第17回大会実行委員長，栃木県立博物館

日本地衣学会第17回大会を2018年9月1日と2日の2日間、栃木県立博物館（栃木県宇都宮市）にて、以下の要領で開催いたしましたので報告します。

* * *

日本地衣学会第17回大会（栃木）

- ・日時：2018年9月1日（土），2日（日）
- ・場所：栃木県立博物館1階・講堂および研修室

・参加者：40名（一般会員25名，学生会員6名，他9名）

* * *

9月1日（土）

10:00-12:00 評議員会

13:00-14:00 公開講演会「雲南の地衣類」

原田浩，千葉県立中央博物館

14:10-14:45 開会の辞

14:45-15:45 総会

16:00-17:30 一般講演

- [1] ○中島啓光(電気通信大学・共通教育部)：ヤマトキゴケの地衣成分と糖アルコールに対する銅汚染の影響
- [2] ○山口遼¹・川上寛子¹・小峰正史¹・山本好和^{1,2}・原光二郎¹(¹秋田県立大院・生物資源,²大阪市立自然史博物館)：培養地衣菌 *Chaenotheca brunneola* の生産するメラニン産生阻害成分II
- [3] ○Ji-Ho Yang, Jae-Seoun Hur (Korean Lichen Research Institute, Suncheon National University)：Effective method of endolichenic fungal isolation and their diversity survey
- [4] ○小竹ひとみ¹・原田浩²・坂田歩美²・吹春俊光²・折原貴道³・清水公徳¹(¹東京理科大学・基礎工学研究科,²千葉県立中央博物館,³神奈川県立生命の星・地球博物館)：ヒメレンゲゴケとナミガタウメノキゴケから分離される担子菌酵母
- [5] ○吉野花奈美¹・山本航平²・升本宙³・出川洋介³・吉川裕子⁴・原田浩⁵・坂本一憲¹(¹千葉大学大学院園芸学研究科,²栃木県立博物館,³筑波大学大学院生命環境科学研究科,⁴千葉県立中央博物館共同研究員,⁵千葉県立中央博物館)：地衣類に内生する糸状菌の種類とその炭素源の探索

18:00- 懇親会 (博物館レストラン)

9月2日(日)

10:00-12:15 一般講演

- [6] ○坂田歩美¹・小竹ひとみ²・清水公徳²・原田浩¹(¹千葉県立中央博物館,²東京理科大学・基礎工学研究科)：日本産フトネゴケ属 *Bulbothrix* の分類学的再検討
- [7] ○綿貴攻^{1,3}・原田浩²・原光二郎³・小峰正史³・藤晋一³(¹千葉県立中央博物館共同研究員,²千葉県立中央博物館,³秋田県立大院・生物資源)：日本産樹皮着生広義スミイボゴケ属(*Buellia* s.l.)地衣類の分類学的研究

(その4)。

- [8] ○升本宙・出川洋介(筑波大学大学院生命環境科学研究科)：長野県上田市で発見された *Multiclavula vernalis* について
- [9] ○坂井広人¹・小澤武雄²・坂田歩美³・原田浩³(¹栃木県立博物館,²栃木県宇都宮市,³千葉県立中央博物館)：栃木県産地衣類に関する新発見(3)
- [10] ○原田浩¹・原光二郎²・木下薫³・坂田歩美¹・吉川裕子⁴(¹千葉県立中央博物館,²秋田県立大学,³明治薬科大学,⁴千葉県立中央博物館共同研究員)：日本産海岸生地衣類の種多様性解明と同定ツールの開発
- [11] ○原光二郎¹・谷口潤¹・木下薫²・坂田歩美³・吉川裕子⁴・原田浩³(¹秋田県立大学,²明治薬科大学,³千葉県立中央博物館,⁴千葉県立中央博物館共同研究員)：日本産海岸生地衣類のDNAバーコーディング技術の開発
- [12] ○木下薫¹・谷川寛典¹・藤本健一郎¹・原田浩²・吉川裕子³・坂田歩美²・原光二郎⁴(¹明治薬科大学,²千葉県立中央博物館,³千葉県立中央博物館共同研究員,⁴秋田県立大学)：日本産海岸生地衣類のLC/MSによる化学成分の分析と分類への応用～*Caloplaca* s.lat.を中心として～
- [13] ○小杉真貴子・藤井里帆・露木聖士郎・小池裕幸(中央大学・理工学部)：ラン藻共生地衣類の光合成系における乾燥応答の特徴

12:15-12:25 閉会式・学生発表賞の授与

* * *

今回、栃木県での日本地衣学会の大会は、はじめての開催となりました。

1日目は評議員会、公開講演会、総会、一般講演、懇親会が行われました。総会では2017年度事業報告や2018年度事業計画等の報告・審議が行われました。公開講演会は「雲南の地衣類」と題し、日本地衣学

会会長の原田 浩先生にお話しいただきました。公開講演会は博物館に観覧に来た方も自由に聴講できる形にしました。雲南が東アジア周辺において最も生物が多様な場所の一つであり、地衣類の楽園であることを説明していただきました。また、身近な生物である多様な地衣類を雲南の人達がお茶や食材として利用していることなどを貴重な画像とともに、分かりやすく紹介いただきました(図1)。

1日目の一般講演では地衣成分、地衣内生菌などの5件の発表がありました(図2)。

夕方からの懇親会は、博物館レストランで開催いたしました。宇都宮名物の「揚げ餃子」、栃木県民に人気のあるキノコ・チタケを使った「館かけ揚げそば」、栃木県が日本一の生産量を誇る野菜・カンピョウが入った「厚焼き玉子」、「鮎の唐揚げ」、「那須高原豚のサラダ」など、栃木県の食材を堪能していただけたものと思います(図3)。



図1. 原田会長による公開講演会の様子。



図2. 一般講演の様子。



図3. 懇親会の様子。

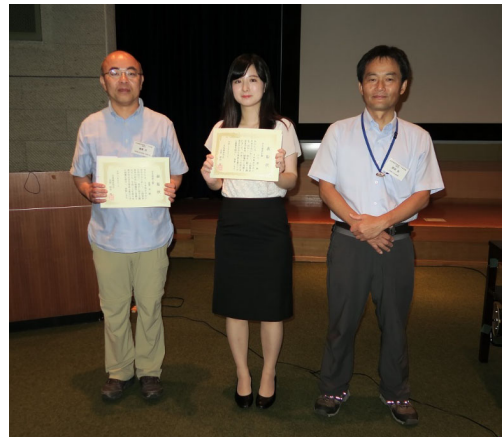


図4. 学生発表賞の授与(左: 綿貫 攻氏, 中央: 山口 遼氏, 右: 日本地衣学会会長 原田 浩氏)。

2日目の一般講演では分類、生態、遺伝子解析、環境応答など8件の発表がありました。講演要旨は「Lichenology」誌の次号に掲載されると思いますので、そちらを参照して下さい。本年度大会では閉会式において学生発表賞の授与が行われました。学生発表A賞に山口 遼氏(秋田県立大大学院)、学生発表B賞に綿貫 攻氏(秋田県立大大学院、千葉県立中央博物館共同研究員)が選ばれました(図4)。その後、博物館の玄関ポーチで記念撮影を行い、散会となりました(図5)。

最後に、本大会の開催に当たりご協力をいただきました栃木県立博物館の皆様には厚くお礼申し上げます。



著者(大会実行委員長)



図 5. 大会終了後に記念撮影.

会員通信 From Members

日本地衣学会第 17 回大会に参加して

My Impression for the 17th Annual Meeting of JSL at Tochigi, September 2018 / by
OTAKE Hitomi

>>>>>> 小竹ひとみ：東京理科大学・基礎工学研究科
・ 生物学専攻・修士課程 1 年

私は今回初めて地衣学会に参加させていただきました。学部 4 年で研究室に配属された時に地衣類というテーマで研究を始め、それから約 1 年半研究を進めてきましたが、今回の学会を通じて私はまだまだ地衣類について知らないことばかりだと改めて感じました。

口頭発表では地衣類の分類や地衣成分、また銅汚染の影響など、地衣類に関する様々な分野についての研究を聞くことができました。それらを聞くことで地衣類の研究分野の広さに驚きました。私は普段、地衣類の内生菌と考えられている菌類についての研究を行っており、扱う地衣類も限定されています。地衣類を構成する菌類や生物についてはどんなものがあるのだろうと調べたり考えたりする

ことはありますが、その他分類や地衣成分などについてはなんとなく想像するだけでした。そのため、地衣類の様々な研究分野の発表を聞き驚くと同時に地衣類について知らないことだらけだと強く実感しました。また、発表では私の知らない地衣類が多く、地衣類の多様性についても知ることができました。地衣類は様々なところにいると知識では知っていましたが、実際に雲南の地衣類や海岸生地衣類などについての発表を聞き、自分の知らない地衣類がまだまだあるのだと感じました。普段扱う種以外についてはあまり意識することは少ないですが、身の回りにある地衣類も含めて興味をもって観察していきたいと感じました。

今回地衣学会で発表することで、様々な先生方とお話

しし、的確なアドバイスを頂くことができました。様々な分野の人と交流することで自分では思いつかなかったアドバイスを頂くことができ、得られたものは多かったと思っています。今回の経験を活かして今後さらに研究を進め

成果を出していければいいと思います。最後にこの場を借りて、学会を通して様々なことを教えていただいた先生方に感謝申し上げます。

日本地衣学会第17回大会に参加して

My Impression for the 17th Annual Meeting of JSL at Tochigi, September 2018/ by

MASUMOTO Hiroshi

>>>>>> 升本 宙：筑波大学生命環境科学研究科・博士後期課程

この度は栃木での地衣学会大会に初めて参加致しました。現在は博士後期課程に所属して、担子菌門に所属する地衣類を中心に地衣体の微細構造観察や共生藻の同定、また培養可能であれば菌と藻との共培養についての研究を行っております。修士課程の頃から地衣類を題材にした研究は行なっておりましたが、野外で地衣類を積極的に探すようになったのはここ1、2年のことであり、野外で出会う地衣類が何物であるのかまだわからないことばかりの今日この頃です。本大会の公開シンポジウム「雲南の地衣類」は、一見すると日本のものとよく似ている雲南の田園風景の中に、日本では山岳地域でよく見られる地衣類が繁茂している様子や、カラタチゴケ属の仲間が民族料理として利用されていて、しかもこれがなかなかの美味であるなど、興味の尽きない話題で一杯でした。一般講演では、地衣成分の生産や機能に関する話題から始まり、地衣体の中に棲んでいる菌類の話が3題続き、翌日に地衣類の分類学的研究の話、栃木県の地衣類相調査の話、日本産海岸生地衣類の種多様性解明に向けたロードマップの話、自由生活性のシアノバクテリアとシアノバクテリア共生地衣類と

の比較の話など多岐にわたる内容となっており、様々な視点から地衣類について考える貴重な機会となりました。特に、3題続いている講演となった地衣体の中に棲んでいる菌類に関しては、近年特にホットな話題となっており、私自身も修士課程の時にこれに類するテーマの研究を行っていたので大変興味深く聴かせていただきました。また、それぞれの演者の方とも交流させていただくことができ、知見を広めるまたとない機会になりました。今回の大会の開催場所である栃木県立博物館では企画展「レッドデータブックとちぎ2018」が開催されており、大会前の時間を利用して見て回りました。生育環境ごとに貴重種が展示されていて、地衣類標本も随所で並べられており、中でも橙色が目に見え鮮やかなコナキクバダイダイゴケ (*Calogaya decipiens*) の展示が印象的でした。今回の私の発表は共生藻の同定等、まだ不完全な点もありましたが、今後さらに掘り下げた研究を進めていきたいと思っています。本大会を通してお世話になりました先生方、そして参加者の皆様に深く感謝申し上げます。

お知らせ News and Announcements

ニュースレター編集委員会からのお知らせ

From Editorial Board of the JSL Newsletter/ by KAWAKAMI Hiroko

>>>>>> 川上 寛子 : ニュースレター編集委員長

● ニュースレター印刷物配布終了のお知らせ

これまで日本地衣学会ホームページでニュースレターを公開していた他に、印刷物を会員の皆様へ配布して

おりましたが、予算削減のため No.150, 151 をもちまして配布を終了することになりました。引き続き、ホームページでは公開しますので、今後もご覧いただけましたら幸いです。ご理解の程、よろしくお願い致します。

◆原稿募集

本誌は、会員からの原稿を随時募集しています。地衣類にまつわるエピソード、思い出、あるいは地衣類に関する写真とタイトル、簡単な説明文だけでも受け付けます。電子メールにて次のアドレス宛に投稿御願います：

bandomakoto@aa6.mopera.ne.jp (坂東 誠)

●複写される方へ

本誌に掲載された著作物を複写したい方は、(社)日本複写権センターと包括複写許諾契約を締結されている企業の従業員以外は、図書館も著作権者から複写権等の行使の委託を受けている次の団体からの許諾を受けてください。著作物の転載・翻訳のような複写以外の許諾は、直接本会へご連絡ください。

〒107-0052 東京都港区赤坂9-6-41 乃木坂ビル 学術著作権協会。

Tel: 03-3475-5618. Fax: 03-3475-5619. E-mail: naka-atsu@muj.biglobe.ne.jp

アメリカ合衆国における複写については、次に連絡してください。

Copyright Clearance Center, Inc. 222 Rosewood Drive, Danvers, MA 01923 USA.

Phone: (978) 750-8400. Fax: (978) 750-4744

●Notice about photocopying

In order to photocopy any work from this publication, you or your organization must obtain permission from the following organization which has been delegated for copyright for clearance by the Japanese Society for Lichenology.

Except in the U.S.A.: Japan Academic Association for Copyright Clearance (JAACC).
6-41 Akasaka 9-chome, Minato-ku, Tokyo 107-0052
Japan. Tel: 81-3-3475-5618. Fax: 81-3-3475-5619.
E-mail: naka-atsu@muj.biglobe.ne.jp

In the U.S.A.: Copyright Clearance Center, Inc. 222
Rosewood Drive, Danvers, MA 01923 USA. Phone:
(978) 750-8400. Fax: (978) 750-4744.

● *Newsletter from the Japanese Society for Lichenology*, no. 151, pp. 577-582: eds. Kawakami H., Bando M., Kawasaki E., published by *the Japanese Society for Lichenology*, 14 Dec. 2018.

日本地衣学会ニュースレター 151号

発行日：2018年12月14日

編集：川上寛子・坂東誠・河崎衣美

発行者・発行所：日本地衣学会

〒830-8555 福岡県久留米市小森野1-1-1

久留米工業高等専門学校 生物応用化学科内
